

参加高校

- 八戸工業高等専門学校
- 山形県立加茂水産高等学校
- 秋田県立横手清陵学院高等学校
- 宮城県柴田農林高等学校
- 岩手県立遠野緑峰高等学校
- 福島県立安達高等学校



写真上：参加してくれた東北各県代表高校の皆さん。  
終了後も和気あいあいに交流を深めました  
写真下：座談会の様子。環境活動への思いを真剣に話し合いました

山形県 山形県立加茂水産高等学校

水産生物部



五十嵐 諒太さん(2年)



佐藤 優衣さん(2年)

授業で藻場のモニタリング方法を学び、部活動では実際に地元の漁業者とともに海藻が減少する「磯焼け」の環境問題に取り組んでいます。結束バンドやタイベースを使い、独自の海藻シートやチェーンアンカーを開発し「Kamoモデル」と呼ばれる藻場造成の仕組みを考案しました。現在は新たな海域で実践するための準備をしています。持続可能な社会へ向けて、自分だけの利益でなく世の中がよくなることを考えていくことが大事。みんなで貧困がなくなる社会を目指したい。今自分たちが取り組んでいる磯焼け問題などを、これからもSDGsにつなげていきたいと思っています。

宮城県 宮城県柴田農林高等学校

動物科学科 畜産専攻班



八島 怜香さん(3年)



大友 未彩さん(3年)

家畜の排せつ物問題について取り組んでいます。牛の糞はたい肥にするだけでなく、燃料にしたり、繊維を取り出して紙にしたり、食用キノコの培地として活用するなどバイオマス資源としての利用を模索しています。家畜は世界各国におり、産業として取り組めば飢餓問題や貧困問題の解消に役立つかもしれません。持続可能な社会のために、身近なものを有効活用するという意識が大切だと思います。不要と思われるものを必要なものに変える今の取り組みを進めながら、自分たちだけのものにせず広く活用できるよう、情報や技術を伝えていきたいです。

福島県 福島県立安達高等学校

自然科学部



齋藤 大冴さん(2年)



渡邊 沙羅さん(1年)

持続可能な社会をテーマに、自分たちが興味を持った活動を自由に行っています。私たちは「足元の再発見」をテーマに、二本松市の町を立体模型にして、地形や生活環境を視覚化し、より住みやすいまちづくりを考えるツールとして制作しています。また、市内のゴミを拾いながら、放射線測定し線量マップをつくっています。今回、自分たちの研究がSDGsにつながっていることがわかりましたが、今後はもっと能動的に取り組んでいきたい。自然界や身の回りにある放射線を含め、福島の実状を正しく理解してもらうためにも、放射線測定の結果は広く発信していきます。

ご参加いただいたみなさん、どうもありがとうございました。